

須賀川市立稲田小学校 第1学期教育課程反省

○成果 ●課題

「5」大変よい 「4」よい 「3」ふつう 「2」課題あり 「1」わるい		
【いつも元気でがんばる子供（体）】		
○健康教育の推進（保健・食育等の重視）	評価	3. 0 6
①欠席が少なく、元気に登校できる児童が多かった。 ②好き嫌いが多い児童が一口ずつ食べるなど、努力が見られるようになった。 ③養護教諭が集約した生活アンケートの結果、子供たちの朝食や寝る時刻なども分かり、指導しやすかった。 ④休み時間には、外に出て元気に活動する子が多く見られた。 ⑤学年通信で「早ね、早起き、朝ごはん」「汗ふきタオルの持参」について保護者に呼び掛けた（懇談会でも）。 ⑥給食の献立を紹介する昼の放送の“にんじん通信”で食べ物について説明があり、よく聞いていた。 ⑦歯科指導を授業参観などに合わせてできたクラスが多かった。 ❶清潔検査でハンカチ、ちり紙忘れ、つめ、歯みがき忘れが毎回2割ほどいた。繰り返し、家庭に呼びかけて協力を仰ぎたい。 ❷偏食の見られる児童については、継続的に指導していきたい。 ❸ハンカチやちり紙を忘れる子が決まってきている。 ❹肥満傾向が見られる児童については、定期的に養護教諭に体重測定をしてもらい、その体重の増減の推移を家庭にもお知らせしているが、なかなか改善されない。 ❺給食の時間に食事のマナーについて毎日のように指導しているが、今後も指導が必要である。 ❻生活習慣アンケートの結果より、朝食摂取や睡眠時間、メディア視聴等、指導が必要と思われる児童が多かった。		
○教科体育の充実（基礎的基本的運動技能の向上）と運動の日常化	評価	3. 3 1
①運動身体づくりプログラムを継続してきたことにより、プログラムの動きに慣れてスムーズに動けるようになってきた。 ②「RunRun タイム」は、1年生でも1人1周から3周走ることができ、体力の向上につながっている。 ③低学年においては、2人体制での指導だったため、1人が運動身体づくりプログラムを行っている間にもう1人が主運動の準備をすることができ、子供たちの運動量が十分に確保できた。 ④体育の授業では、集団行動の大切さを伝えたり、様々な運動を取り入れたりしながら、運動することの楽しさを味わわせた。 ⑤陸上クラブに入部している児童が多く、目標を持って運動に取り組んでいた。 ❶「RUNRUN タイム」の取り組みに学年個人によって差があるため、学級ごとの周回数をより明確化して取り組めるとよい。 ❷体育の授業では、自分なりに活動の課題を持たせながら技能の向上を図れるような内容を考えていきたい。		
○安全に行動できる判断力の育成（放射線教育を含む）	評価	3. 0 0
①校外学習で訪れた施設で放射線について学習し、考えることができた。 ②日常生活において、常に安全に留意しながら行動できるよう、場面等を想定した細かな指導をしてきた。 ③昨年度まで、朝は保護者に車で送られて来ていた児童に、集団登校をすすめたところ、保護者の了解も		

あり、今年度は集団登校で来られるようになった。また副班長になった児童も、昨年度と比べると成長が見られた（担任としても定期的に声をかけ、様子を聞くようにしている）。

- ①目先のことにとらわれて、判断力に欠ける時があるため、折に触れて指導してきた。
- ②体調を崩し、欠席する子が多いように感じる。自己の体力、からだの事についての関心を高められるような指導をしたい。
- ③一部の児童に、自転車の乗り方や生活面で落ち着きのない行動が見られた。

【なかよく助け合う子供（徳）】

○基本的な生活習慣の確立（あいさつ・言葉遣い等）

評価 3. 13

- ①児童会でやっているあいさつ運動で、昼の放送の際に自分の名前を呼ばれる事を楽しみにしている。また、それが元気なあいさつへの意欲につながっている。
- ②生活委員会のあいさつ運動などを通し、元気にあいさつできるようになった。継続して心地よいあいさつや返事につなげたい。
- ③みんなで言葉遣いを気にし、注意し合うようにしてきた。あいさつはまだ不十分だが、時間を気にして生活したり、すべきことをしっかりできたり、よい生活習慣が身に付いてきている。
- ④あいさつや会釈を意識してする児童の姿が多くなってきた。
- ①児童同士の言葉遣いが荒く、その都度指導を繰り返してきた。
- ②友達に対して名前を呼び捨てにしたり、乱暴な言葉遣いをしたりする様子が見られた。
- ③時計や日課表を見て、遅れないように自分で行動することはまだまだ指導が必要である。
- ④整理整頓についても、声を掛けないとしっかりとできない児童も見られる。
- ⑤時計を見て生活できるようにしたい。
- ⑥相手を思いやる、優しい言葉遣いを心がけさせたい。

○学校教育全体で行う道徳教育の充実

評価 3. 06

- ①学校生活で実践に結びつくような教材を取り上げ、指導を行ってきた。
- ②日常のいろいろな場面で、主に「善悪の判断」について学級全体で考えさせた。
- ③責任・思いやり・自主自律等について生活・学習等全体で考え、実践してきた。自分で判断して正しく行動することができるようになってきた。
- ①副読本や資料を有効に活用しながら、実践に結びつくような指導の工夫が必要である。
- ②資料を読んで善悪の判断はついているが、それが実践できていない事が多かった。
- ③いけないことだと思うことを、互いに注意し合うことができる一方で、よいと思っただけで、相手の口調が強かったり、受け止められなかったりして、言い合いになることもあった。相手の立場に立って考えられる心を育てたい。
- ④よい行い、正しい行いについて理解できているが、行動に移すことが難しい時がある。

○励まし合い、協力し合う子供集団の育成

評価 3. 69

- ①友達の活躍を皆で称賛することができるようになってきた。
- ②帰りの会に「きりり発見」として、よい事をした友達を発表する場を作り子供たちの良さを認め合った。
- ③困っている友達に声をかける姿をたくさん見かけた。よい行動を見つけた時には称賛してきた。
- ④高学年を中心に、下級生を面倒見る優しい行動が見られた。
- ⑤宿泊学習や学級のグループ活動等を通して、協力し合うこと、励まし合って達成することができるようになってきたと感じる。
- ⑥1年生を迎える会、運動会、修学旅行に向け、互いに助け合い協力することができ、全体としての充実

感を感じ取ることができた。 ⑦学級の中で過ごす機会が多くなり、日々些細なトラブルはあるものの、かかわりを持って生活することができていることは良いと思う。 ⑧宿泊学習や修学旅行で励まし合いながら活動する姿が見られた。 ❶学習時のグループ活動がより機能するように指導していきたい。		
【楽しく勉強する子供（知）】		
○基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力等の育成	評価	3. 3 1
①個に応じた指導の時間を確保してきた。 ②ウルトラタイムでは、学校サポーターの方が増えたことで、子供たちは丸付けのために並ぶ時間が減り、問題に集中することができた。 ③漢字や計算を中心に、家庭学習との関連を意識しながら定着を図ることができた。 ④毎週漢字ミニテストを実施したことで、新出漢字の定着に向けて意識が高まったと思う。 ⑤算数のコース別学習はとても有効であった。 ⑥一時間一時間の学びを大切にしてきた。全体への基礎・基本の定着だけでなく、下位児、上位児にも適切な手立てができた。また、話し合い活動もよくできた。 ⑦児童の実態を考慮し、本時のねらい、目標をどこに設定するのかを考えながら授業実践を行ってきた。 ❶自分の言葉で表現することが苦手な児童が多いため、今後表現する活動や場を増やしていきたい。 ❷授業中に発表する子が限定されがちであるため、話す機会を多くする目的で、ペア・グループ学習を増やしてきた。その結果、少しずつ友達との学びを楽しめるようになってきたので今後も継続していきたい。 ❸ノートに自分の考えを書く時間をできるだけ確保したが、書くことを苦手とする児童が見られた。授業以外のところでも、手立てを考えていく必要がある。		
○特別支援教育の充実	評価	3. 1 7
①スクールカウンセラーの先生に授業の様子を見ていただき、気になる児童については相談することができた。 ②特別支援教育コーディネーターに相談し、関係機関との連携を図ってきた。 ③聴覚支援学校の児童との交流などを通し、相手を思いやる行動を育むことができた。 ④支援体制、チームワークが良かった。個への指導が良かった。 ⑤低学年は2人担任制を有効に活用し、個別指導が機能していた。 ❶今年度は支援員の先生が1名減になったことにより、昨年度のような支援ができなくなったが、個の課題をとらえ、一人一人に寄り添った指導に努めたい。 ❷支援員が1人になり、個別の対応がなかなか難しい。		
○学校図書館を利用した読書活動の推進	評価	3. 3 8
①絵本の読み聞かせの機会を増やしてきた。 ②司書による読み聞かせ、お話会の方の読み聞かせは、子供たちはとても楽しみにしていた。読書の楽しさを味わわせることができる機会となった。 ③図書委員会における読書郵便の取り組みは、楽しんで行うことができた。 ④図書室の環境が改善された。読書活動の推進が十分であった。 ⑤図書室が快適な場所になり、児童も活用している。 ❶2学期からは読書カードも活用し、読書の成果を記録させたい。 ❷国語の授業等で読書活動に親しんだが、昨年より図書室に通う時間が確保できなかった。		

○小中一貫教育・幼小連携の推進	評価	2. 64
①（幼稚園との）春休み中の児童の情報交換が指導に役立った。 ②運動会の時の中学生ボランティアの働きが大変役立った。 ③PTA専門委員会の活動が協力して進められている。 ④秋華祭に向けた関わりが昨年より深まっている。 ⑤朝食週間の日程を幼小中合わせられるよう調整を行った。 ⑥幼稚園の検診に行き、様子を見たり、情報交換したりしながら実態把握に努めている。 ❶来年度に向けさらに取り組みが進んでいる面（運動会、PTA活動等）もあるが、まだまだ課題がある。 ❷効率的な会議の設定を考えたい。		
自由記述（全教育活動から）		
①研修バスでの翠ヶ丘公園の校外学習がとても良かった。時期や場所も良かった。 ②毎朝6年生が1年生のお世話に来てくれたことで、とても助けられた。子供たちも喜んでた。 ③清掃も登校班も上学年の児童がしっかりと下級生のお世話をしてくれた。 ④研修バスでは、予定になかった見学を入れていただき、ありがたかった。 ⑤学校サポーター（丸付け）がありがたい。 ⑥登校班については、先生方にご協力いただいて問題が起きた時など早期対応することができていた。 ⑦7学年に協力いただき、算数での習熟度別学習ができ、効果が上がっている。 ⑧3・4・5年生の研修バスの時には、支援員の先生と一緒にについて行っていただき、大変助かった。 ⑨『「RunRun タイム」は全員で取り組もう！』ということで、担任も児童と一緒に取り組んできた。今まで走ることが嫌いだった児童も自分から外に出るようになった。 ❶ウルトラタイムによって、どれだけ基礎学力が底上げされたか把握するのが難しい。 ❷ウルトラタイムの時間が設けられているのはとてもよいが、今後、取り組む内容を吟味する必要がある。 ❸今年度から中学校に合わせた日課表が実施され、6校時授業日になると児童の下校時刻が16：00近くになり、なかなか放課後の時間がとれない。 ❹個別指導をより充実させるため、TT指導を中学年にも入れていきたい。		
キャリア教育指導計画に基づく反省	評価	3. 00
①自分の身の回りのことを自分でできるように指導してきた。係や当番活動では、どのような活動をするのかを教えて、自分達で活動できるように順序立てて指導した。 ②『他者に働きかけるスキル』の育成に関しては、授業の中でペア・グループ活動を取り入れ、友達とかかわる時間を意図的に取り上げた。はじめは、活動中に言い合いになってしまい、活動が止まることもあったが、互いに譲り合ったり、相手の話を聞こうとしたりする姿が見られるようになった。 ③『忍耐力』の育成については、委員会・係活動を忘れずにきちんと行うことや、やるべきこと（宿題）は自分の習い事に関係なくきちんとやる事を通して育成を図ってきた。 ④修学旅行（特にキzzaニア）での学習を中心に学習を進め、キャリアプランニング能力を高めることができた。 ⑤自立活動の時間に、ソーシャルスキルワークを活用して取り組んでいる。 ⑦学級活動の係活動に関わる指導で、人間関係形成・社会形成能力の育成にかかわる内容を実施した。 ❶難しい言葉、聞きなれない言葉への適応力に課題があるため、国語科の学習を中心として、文字に触れたり、語彙力を増やしたりする学習が大切であるように感じる。		